

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	WJOG13420G プラチナ製剤不応・不耐の消化管原発神経内分泌癌に対するラムシルマブ併用療法の多施設共同後ろ向き観察研究
	研究目的	消化管原発神経内分泌癌は希少癌であり確立された標準治療がなく、肺小細胞癌に準じて治療されることが多いのが現状です。現在、みなし標準治療であるエトポシド+シスプラチンとイリノテカン+シスプラチンを比較する臨床試験が進行しています。しかし、これらの治療が効かなくなった患者さんには決まった治療がありません。近年、胃・大腸の神経内分泌癌に対して胃癌、大腸癌で用いられる血管新生阻害薬であるラムシルマブが用いられることがあり、神経内分泌癌の治療として有効ではないかと期待されています。しかし、消化管原発神経内分泌癌は非常に稀な病気であり、大勢の患者さんに参加して頂く臨床試験を行うことが難しいのが現状です。そこで胃・大腸原の神経内分泌癌の患者さんのうち2次治療を受けられた患者さんの治療に関連する情報を振り返って収集し解析することで、同対象に有望な二次治療を明らかにすることを目的として、この研究を発案しました。
	研究対象者	プラチナ製剤を含む1次治療を受けられた胃・大腸原発神経内分泌癌の患者さんで、西暦2015年3月1日から西暦2020年6月30日の間に2次治療を受けた方
	研究期間	西暦2021年6月14日～西暦2022年1月28日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input checked="" type="checkbox"/> その他(放射線診断や超音波 <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録 検査、内視鏡検査等の画像データ)	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	消化器内科・消化管 町田望
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器内科・消化管、腫瘍内科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	愛知県がんセンター 舩石 俊樹 神奈川県立がんセンター 町田望 他参加施設